

第2次小樽市健康増進計画「第2次健康おたる21」

平成28年度事業評価及び平成29年度事業計画

平成29年6月

小樽市保健所

目 次

1	地域連携によるがん検診の普及啓発推進	3
2	地域連携による特定健康診査・特定保健指導の普及啓発推進	7
3	血圧自己測定推進	10
4	ウォーキングの推進	13
5	おいしい空気の施設推進	16
6	禁煙宣言プロジェクト推進	19
7	ヘルシーメニュー事業	21
8	毎日朝食をとる、家族の誰かと一緒に朝食をとる	23
9	栄養成分表示の店推進	25
10	食事バランスガイド活用の推進	27
11	悩みの相談窓口の周知啓発推進	29
12	効果的な歯磨きの普及	34
13	歯周病セルフチェックの普及	36
14	むし歯のない3歳児を増やす	38
15	思春期の健康教育推進	40
16	麻しんワクチン接種の推進	42
17	第2次健康おたる21普及・啓発	44
18	チャレンジ！健康クイズ	46
19	前期計画策定シート	

【平成 28 年度報告】

小樽市健康増進計画施策に基づく具体的方策

作成者氏名：(吉川 里紗)

施 策	がん・循環器疾患・糖尿病領域
事業名	地域連携によるがん検診普及啓発推進事業
事業費	健康診査事業費（各種がん検診）
Plan 活動計画 (目的、目標)	<p>1 医療機関連携によるがん検診の啓発と連携方法の検討 目的：がん検診受診率増加のために医療連携の必要性や方法について検討し、対策につなげる。 目標：具体的な連携方法について検討できる。</p> <p>2 職域連携によるがん検診の周知・啓発 目的：働く世代のがん予防として、がん検診の必要性を周知・啓発する。 目標：働く世代の団体と連携し、がん検診の周知・啓発を行う。</p> <p>3 各団体・関係機関との連携 目的：各団体の主催するイベントに参加することにより、多くの人が集まる場所で周知、検診、健康相談を行い、市民の健康管理の動機づけとする。 目標：スポーツフェスティバル参加者・来場者の 40 名程度が肺がん検診を受診できる。</p> <p>4 健康教育による受診勧奨 目的：健康教育により、がん健診の必要性について周知・啓発を行う。 目標：ピンクリボンファミリーイベントで、がん検診の普及啓発を行うことができる。(参加数：100 名)</p>
Do 実践 (対象、方法、 時期など)	<p>1 医療機関連携によるがん検診の啓発と連携方法の検討 がん検診の受診率向上に向けた連携方法について検討する。 がん検診啓発を医師会・歯科医師会・薬剤師会に依頼する。</p> <p>2 職域連携によるがん検診の周知・啓発 11 月 中小企業家同友会との健康セミナー</p> <p>3 各団体・関係機関との連携 街頭検診協力機関にポスター掲示を依頼 国保新規加入者向けがん検診チラシを配布 9 月 wa-o! に記事を掲載予定（「女性のがん検診」） 9/11 スポーツフェスティバルにおける健康相談・肺がん検診 H28.10 FM おたる がん対策について</p> <p>4 健康教育による受診勧奨 ・ピンクリボンイベント（5 月・10 月） ステージにおける健康教育、健康相談、模型による自己触診体験 ・その他健康教育 がん関係を実施する。</p>
Check	モニタリング：職域連携の方法については、検討が必要である。その他については計画どおり推進することができている。

<p>モニタリング 評価</p>	<p><追加の取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん検診クーポン発送時に、がん検診啓発のチラシを同封 ・がん征圧月間（9月）子育て支援SG事業及びイベントにおいてチラシを配布。（1039枚） ・女性の健康週間（3月）1.6健、3健及び栄養関係の事業において女性のがん検診チラシの配布。（183枚） ・街頭検診、地域のけんしん会場におけるポスター掲示 ・胃がん検診市内受託医療機関へ胃がん検診のポスター掲示と胃がん検診周知のチラシの配布を依頼。 ・市内関係施設へチラシの設置を依頼（350枚）。 ・精神事業周知イベントに併せた、がん検診チラシの配布（1000枚）。 <p>評価指標：</p> <p>がんの75歳未満の年齢調整死亡率が減少する。（現状値（H23年度）：98.6）</p> <p>がん検診受診率が増加する。</p> <p>〔現状値（H23年度）男性：胃～20.3%、肺～27.4%、大腸～24.3% 女性：胃～23.3%、肺28.3%、大腸～24.2%、子宮～26.1%、乳～29.0%〕</p> <p>評価：</p> <p>【評価の視点】</p> <p>1 医療機関連携による受診勧奨の方策について検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・胃がん検診の個別検診を市内4医療機関で平成28年度から開始し、医療機関からの受診勧奨の協力を得た。 ・医師会、歯科医師会、薬剤師会の協力の下、チラシによるがん検診の周知を実施した。（チラシ配布枚数：770枚） ・女性のがん検診医療機関情報のチラシを作成した。（配布枚数：4,632枚） 今後もあらゆる機会を通じて連携した取組みを検討、実践していく。 <p>2 職域連携によるがん検診の周知・啓発</p> <p>企業にて健康教育を実施し、がんに関する啓発を実施した。中小企業家同友会との健康セミナーについては、健康に関するテーマを一巡しているため実施できなかった。今後の啓発を検討する。</p> <p>3 各団体との連携について</p> <p>保健師2名で実施した。</p> <p>【スポーツフェスティバル】主催：NPO法人小樽体育協会 北海道対がん協会に委託し肺がん検診を実施。受診者数：34名 スポーツフェスティバルは、地域の各スポーツ団体に所属する方の発表の場となっており、観覧客も含め多くの来場者があり、幅広い世代へ肺がん検診の周知・勧奨ができた。</p> <p>【wa-o!への記事掲載】発行元：坂の街出版 女性のがん検診に関する記事を掲載した。 子育て世代への子宮頸がん検診の周知になったと判断する。</p>
----------------------	---

	<p>【けんしん会場のポスター掲示】 街頭検診：31 か所、地域のけんしん：17 か所 会場により、掲示スペースの無い場所もあったが、ほぼ掲示することができた。また、会場により、受診者数の伸びが見られた会場もあり、今後も継続していく。</p> <p>【FM おたる】 ・10月3日 がん検診について</p> <p>【その他】 ・国保新規加入者に対するがん検診啓発チラシを配布（1050 枚） ・広報おたる「胃がん検診が市内4カ所の医療機関で受けられるようになりました」記事掲載（H28.8） あらゆる機会を通じて、啓発の取組みを実施することができた。今後も継続していく。</p> <p>4 健康教育による受診勧奨 ピンクリボンファミリーのイベントに参加し、健康クイズを実施した。当日は、乳がん模型の触診体験も実施した。ウイングベイでの開催は、場所も良く、通行人が興味をもって触診体験をしていた。参加者からは「がん検診を受けてみようと思う」という声も聞かれ、がん検診の動機づけになったと判断される。また、子育て世代や若い世代も多く適切な世代に啓発ができた。 参加者数は141名（5/8～86名、10/2～55名）にて目標を達成することができた。</p>
Act 改善	<p>1 医療機関連携による受診勧奨の方策について検討 がん検診を委託している医療機関などとの連携は重要であり、今後も協力を得ながら実施を継続していく。</p> <p>2 職域連携によるがん検診の周知・啓発 職域におけるがん検診の啓発と受診率が増加することは重要であり、方法を検討しながら今後も取組を継続することが必要ある。</p> <p>3 各団体との連携について 各団体と連携することにより、様々な対象に周知・啓発することが可能となるため、今後も継続していく。</p> <p>4 健康教育による受診勧奨 イベントを活用した健康教育は世代の偏りもなく、多くの方に興味を持ってもらうことに効果的であり、今後も継続していく。</p>

【平成 29 年度計画】

小樽市健康増進計画施策に基づく具体的方策

作成者氏名：（ 吉川 里紗 ）

施策	がん・循環器疾患・糖尿病領域
事業名	地域連携によるがん検診普及啓発推進事業

事業費	健康診査事業費（各種がん検診）
Plan 活動計画 (目的、目標)	<p>1 医療機関連携によるがん検診の啓発と連携方法の検討 目的：がん検診受診率増加のために医療連携の必要性や方法について検討し、対策につなげる。 目標：具体的な連携方法について検討できる。</p> <p>2 職域連携によるがん検診の周知・啓発 目的：働く世代のがん予防として、がん検診の必要性を周知・啓発する。 目標：働く世代の団体と連携し、がん検診の周知・啓発を行う。</p> <p>3 各団体・関係機関との連携 目的：各団体の主催するイベントに参加することにより、多くの人が集まる場所で周知、検診、健康相談を行い、市民の健康管理の動機づけとする。 目標：スポーツフェスティバル参加者・来場者の40名程度が肺がん検診を受診できる。</p> <p>4 健康教育による受診勧奨 目的：健康教育により、がん検診の必要性について周知・啓発を行う。 目標：ピンクリボンファミリーイベントで、がん検診の普及啓発を行うことができる。（参加数：100名）</p>
Do 実践 (対象、方法、 時期など)	<p>1 医療機関連携によるがん検診の啓発と連携方法の検討 がん検診の受診率向上に向け、受託医療機関へポスター掲示を依頼。 がん検診啓発を医師会・歯科医師会・薬剤師会に依頼</p> <p>2 職域連携によるがん検診の周知・啓発 働く世代の団体へのがん及びがん検診の周知・啓発を実施する</p> <p>3 各団体・関係機関との連携 街頭検診協力機関にポスター掲示を依頼 国保年金課に依頼し、がん検診啓発チラシを国保新規加入者に配布する。 子育ての事業において女性のがん検診の周知・啓発を行う。 市内関係機関にがん検診啓発チラシの設置依頼 8・9月号 坂の街出版 wa-o! に記事を掲載予定 9/10 スポーツフェスティバルにおける健康相談・肺がん検診 10月 FMおたる がん検診について</p> <p>4 健康教育による受診勧奨 ・ピンクリボン（5月・10月） ステージにおける健康教育、健康相談、模型における自己触診体験 ・その他健康教育 がん関係を実施する。</p>
Check モニタリング 評価	

【平成 28 年度報告】

小樽市健康増進計画施策に基づく具体的方策

作成者氏名：(横尾 陽子)

施 策	地域連携による特定健診・特定保健指導の普及啓発推進
事業名	地域連携による特定健診・特定保健指導の普及啓発推進事業
事業費	健康診査事業費（特定保健指導、特定健康相談）
Plan 活動計画 (目的 目標)	<p>1 保険者との連携による特定健診受診勧奨の方策について検討 目的：特定健診受診率増加のために保険者連携し、対策を検討する。 目標：国保担当者と相談し、受診率向上の取組を検討する。</p> <p>2 町内会館等でのがん検診との同時実施による受診率向上 目的：市民に身近な場所での健診機会を増やし、市民が健診を受けやすい体制整備をする。 目標：がん検診と特定健診を同時に受診する市民の増加。</p> <p>3 動機付け支援プログラムの充実による特定保健指導実施率の向上 目的：市民が受けやすいプログラムの内容を検討する。 目標：特定保健指導実施率が増加する。</p>
Do 実践 (対象、方法、 時期など)	<p>1 保険者との連携による特定健診受診勧奨の方策について検討 国保担当者と打合せを行い、受診率向上の取組について検討する。</p> <p>2 町内会館等でのがん検診との同時実施による受診率向上 地域のけんしんで、がん検診・特定健診を同時に開催する。</p> <p>3 動機付け支援プログラムの充実による特定保健指導実施率の向上 チラシの内容を変更する。 家庭訪問における保健指導を実施する。 対象者で申し込みのない方への電話勧奨を行う。</p>
Check モニタリング 評価	<p>モニタリング： 計画に基づいた実施ができている。特定保健指導の利用率には伸びはみられず、市民ニーズに合致していない、または市民の健康管理の意識への働きかけが不十分である可能性が考えられる。</p> <p>評価： 脳血管疾患の年齢調整死亡率の減少（現在値（H23 年度）男性 50.0%女性 21.3%） 虚血性心疾患の年齢調整死亡率を増加させない（現在値（H23 年度）男性 21.5 女性 7.5） 糖尿病の年齢調整死亡率を増加させない（現在地（H23 年度）男性 9.6 女性 2.1）</p> <p>【評価の視点】</p> <p>1 保険者との連携による特定健診受診勧奨の方策について検討 ①国保年金課、健康増進課で健診受診率向上の打合せを実施し、がん検診のチラシに特定健診情報を掲載することにした。 ②国保年金課、後期高齢・福祉医療課、保健総務課及び健康増進課（地域保健 SG、歯科）で会議を行い、健診、がん検診受診率向上対策としてけんしんカレンダー</p>

の作成（次年度）について検討し、関係課の現状や課題を共有する機会となった。

2 町内会館等でのがん検診との同時実施による受診率向上

協力機関：対がん協会 担当課：保健総務課

10月9日（日）地域のけんしんとして銭函市民センターで実施し、昨年度よりも受診数は増加した。

受診数（地域のけんしん 銭函市民センター）H29.3.31 現在

年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
受診数	35 名	15 名	24 名

3 動機付け支援プログラムの充実による特定保健指導実施率の向上

特定保健指導の案内チラシの内容を変更し参加者特典を目立たせた。

家庭訪問における保健指導の利用者：1人（前年度7人より減少）

未利用者への電話勧奨数 299人のうち、特定保健指導参加 16人

（前年度：電話勧奨数 271人のうち、特定保健指導参加 25人）

チラシ内容の変更や未利用者への電話勧奨を実施したが、利用者は減少傾向である。家庭訪問における保健指導についても利用者は減少傾向であるが、利用者のニーズがあるため今後も継続する。

【特定保健指導（動機付け）実施率】（平成 29 年 3 月 31 日現在）

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
対象者	369	357	341	336
利用者 (実施率)	63(17.1%)	63(17.6%)	61 (17.9%)	45 (13.4%)

Act
改善

1 保険者との連携による特定健診受診勧奨の方策について検討

今後も情報の共有を図りながら、受診率の向上に向けて検討を継続する。

2 町内会館等でのがん検診との同時実施による受診率向上

今後も継続して実施する。

3 動機付け支援プログラムの充実による特定保健指導実施率の向上

チラシ配布や対象者全員に電話勧奨をしているが、特定保健指導（動機付け）実施率は低下している。積極的支援の実施率も低下しており、検討が必要であるため、「特定保健指導実施率の向上」に変更する。

【平成 29 年度計画】

小樽市健康増進計画施策に基づく具体的方策

作成者氏名：（ 横尾 陽子 ）

施策	地域連携による特定健診・特定保健指導の普及啓発推進
事業名	地域連携による特定健診・特定保健指導の普及啓発推進事業
事業費	健康診査事業費（特定保健指導、特定健康相談）
Plan	1 保険者との連携による特定健診受診勧奨の方策について検討

<p>活動計画</p> <p>(目的 目標)</p>	<p>目的：特定健診受診率増加のために保険者連携し、対策を検討する。 目標：国保担当者と相談し、受診率向上の取組を検討する。</p> <p>2 町内会館等でのがん検診との同時実施による受診率向上</p> <p>目的：市民に身近な場所での健診機会を増やし、市民が健診を受けやすい体制整備をする。 目標：がん検診と特定健診を同時に受診する市民の増加。</p> <p>3 特定保健指導実施率の向上</p> <p>目的：市民が受けやすいプログラムの内容を検討する。 目標：特定保健指導実施率が増加する。</p>
<p>Do 実践 (対象、方法、 時期など)</p>	<p>1 保険者との連携による特定健診受診勧奨の方策について検討 国保担当者と打合せを行い、受診率向上の取組について検討する。</p> <p>2 町内会館等でのがん検診との同時実施による受診率向上 地域のけんしんで、がん検診・特定健診を同時に開催する。</p> <p>3 特定保健指導実施率の向上 家庭訪問における保健指導を実施する。 対象者で申し込みのない方へ電話勧奨及び訪問勧奨を行う。</p>
<p>Check モニタリング 評価</p>	

【平成 28 年度報告】

小樽市健康増進計画施策に基づく具体的方策

作成者氏名：(横尾 陽子)

施 策	血圧自己測定推進
事業名	血圧自己測定推進事業
事業費	健康教育事業費
Plan 活動計画 (目的 目標)	<p>1 市民への健康教育の実施 目的：市民が血圧測定の正しい知識を得られ、自身の健康管理について主体的に取り組むことができる。 目標：地域保健 SG の健康教育において実施するアンケートで、自宅で血圧を測定している方及びこれから測定すると答える方が増加する。</p> <p>2 健康相談、健康教育、各種イベント等における啓発リーフレットの配布 目的：血圧自己測定の必要性について広く周知啓発することで、体調管理に取り組むきっかけづくりとする。 目標：健康相談、健康教育、各種イベントにおいて血圧自己測定のチラシを配布する。(1000 部)</p> <p>3 特定保健指導、特定健康相談における周知・勧奨 目的：特定保健指導、特定健康相談対象者が、血圧測定の正しい知識を得られ、自身の健康管理について主体的に取り組むことで、将来の生活習慣病を予防する。 目標：特定保健指導及び特定健康相談対象者全員へチラシにて周知する。 特定保健指導及び特定健康相談実施者全員へ口頭で勧奨する。</p>
Do 実践 (対象、方法、 時期など)	<p>1 市民への健康教育の実施 生活習慣病に関する健康教育の際に、血圧自己測定について対象者に説明する。</p> <p>2 健康相談、健康教育、各種イベント等における啓発リーフレットの配布 健康相談、他 SG の健康教育、各種イベント等において啓発リーフレットを配布する。</p> <p>3 特定保健指導、特定健康相談における周知・勧奨 特定健康相談の案内発送時に、チラシを同封する。 特定保健指導、特定健康相談の実施時に、自宅での血圧自己測定を勧奨する。</p>
Check モニタリング 評価	<p>モニタリング：計画に基づき、啓発を実施することができた。健康教育、健康相談を活用することで、興味のある対象に対し、自己血圧測定について啓発することができていると判断する。</p> <p>評価指標：自宅などで血圧測定する 40 歳代の増加（現在値（H23 年度）21.1%）</p>

1 市民への健康教育の実施

生活習慣病に関する健康教育で血圧自己測定について説明～8回 195人アンケートでは血圧自己測定について、「測定している」方が70%を超え増加し、「これから測る」と回答した方は20%程度であった。今後も健康教育で血圧自己測定の必要性について啓発していく。

	平成26年度	平成27年度	平成28年度
測定している	79名 (56.4%)	55名 (52.9%)	84名 (74.3%)
これから測る	42名 (30.0%)	35名 (33.7%)	21名 (18.6%)
測らない	19名 (13.6%)	14名 (13.5%)	8名 (7.1%)
計	140名	104名	113名

2 健康相談、健康教育や各種イベント等における啓発リーフレットの配布

啓発リーフレットを配布：1716名

内訳：地域保健SG健康教育～11回 353名

各種イベント～162名

(5/8・10/2 ピンクリボンファミリー、5/14 看護の日、9/4 救急の日、9/11 スポーツフェスティバル)

その他～196名

下記3での配布～1005名

健康教育や協力団体と連携した各種イベント等を通じて、実施することができた。今後もあらゆる機会を通じてリーフレットの配布に取り組む。

今年度はポスターによる周知までには至らなかったため、今後の課題とする。

3 特定保健指導、特定健康相談で勧奨

特定保健指導参加：52名 特定健康相談対象者：155名 (特定健康相談参加：5名)

特定保健指導利用再勧奨等で配布：798名

特定保健指導、特定健康相談の対象者や参加者にチラシによる啓発を実施し、今後も啓発を継続することとする。

Act
改善

1 市民への健康教育の実施

今後も継続して実施する。

2 健康相談、健康教育や各種イベント等における啓発リーフレットの配布

広く啓発するために有効であり、今後も計画を継続する。

3 特定保健指導、特定健康相談で勧奨

今後も継続して実施する。

【平成 29 年度計画】

小樽市健康増進計画施策に基づく具体的方策

作成者氏名：(横尾 陽子)

施 策	血圧自己測定推進
事業名	血圧自己測定推進事業
事業費	健康教育事業費
Plan 活動計画 (目的 目標)	<p>【平成 29 年度実施計画】</p> <p>1 市民への健康教育の実施 目的：市民が血圧測定の正しい知識を得られ、自身の健康管理について主体的に取り組むことができる。 目標：地域保健 SG の健康教育において実施するアンケートで、自宅で血圧を測定している方及びこれから測定すると答える方が増加する。</p> <p>2 健康相談、健康教育、各種イベント等における啓発リーフレットの配布 目的：血圧自己測定の必要性について広く周知啓発することで、体調管理に取り組むきっかけづくりとする。 目標：健康相談、健康教育、各種イベントにおいて血圧自己測定のチラシを配布する。(1000 部)</p> <p>3 特定保健指導、特定健康相談における周知・勧奨 目的：特定保健指導、特定健康相談対象者が、血圧測定の正しい知識を得られ、自身の健康管理について主体的に取り組むことで、将来の生活習慣病を予防する。 目標：特定保健指導及び特定健康相談対象者全員へチラシにて周知する。 特定保健指導及び特定健康相談実施者全員へ口頭で勧奨する。</p>
Do 実践 (対象、方法、 時期など)	<p>【平成 29 年度実施計画】</p> <p>1 市民への健康教育の実施 生活習慣病に関する健康教育の際に、血圧自己測定について対象者に説明する。</p> <p>2 健康相談、健康教育、各種イベント等における啓発リーフレットの配布 健康相談、他 SG の健康教育、各種イベント等において啓発リーフレットを配布する。</p> <p>3 特定保健指導、特定健康相談における周知・勧奨 特定健康相談の案内発送時に、チラシを同封する。 特定保健指導、特定健康相談の実施時に、自宅での血圧自己測定を勧奨する。</p>
Check モニタリング 評価	

【平成 28 年度報告】

施 策	ウォーキングの推進
事業名	小樽健康づくりウォーキング推進事業
事業費	小樽健康づくりウォーキング推進事業費
Plan 活動計画 (目的・目標)	<p>1 ウォーキングサポーターを養成し、サポーターによる市民への健康教育を実施する。</p> <p>目的：①ウォーキング及びノルディックウォーキングを普及する人材となるウォーキングサポーター（以下、サポーターとする）を養成する。 ②ウォーキングに対する正しい知識をもつ市民の増加及び定期的なウォーキング習慣を持つ市民の増加を目指す。</p> <p>目標：①サポーターを 20 名養成する。 ②健康教育に延べ 2,000 人の市民が参加する。</p> <p>2 職域連携による普及啓発</p> <p>目的：働く世代から定期的な運動習慣の必要性について、ウォーキングを通じた普及啓発を図る。</p> <p>目標：健康教育参加者数が増加する。(職域・ウォーキング関係)</p>
Do 実践 (対象、方法、 時期など)	<p>1 ウォーキングサポーターを養成し、サポーターによる市民への健康教育を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5/13,20,27,6/3,10 の全 5 回（全て金曜日）に養成講座を開催 ・依頼のあった町内会、施設、企業、団体及び個人に対し、ウォーキングの普及啓発を行う。 ・サポーターによる市民への普及啓発を支援する。 <p>2 職域連携による普及啓発</p> <p>職域での健康教育実施時にあわせて、ウォーキングの普及啓発を図る。 健康教育用アンケートにより、運動習慣について情報収集を行う。</p>
Check モニタリング 評価	<p>評価指標： 40～50 歳代の運動習慣者の割合の増加（現状値（H23 年度）：34.5%）</p> <p>モニタリング：計画に基づいた実施ができています。</p> <p>評価： 保健師 2 名で実施した。</p> <p>1 サポーター養成講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サポーター養成数：8 名 ・サポーター総数：58 名（平成 29 年 3 月 31 日現在） ・周知方法：H28.4 の特定健康相談対象者にチラシを送付した。 <p>毎年一定程度のサポーターを養成しているが、目標には達していない。周知も含め、対象者の発掘が必要である。また、サポーターの高齢化等にともない辞退者がいるため、計画どおりにサポーターは増加していない。</p>

	<p>市民への健康教育の実施</p> <p>健康教育実施回数・参加人数（平成 29 年 3 月 31 日現在）</p> <p>実 13 回 延 107 回 実 215 名 延 1483 名</p> <p>参加延べ人数が昨年度より減少し、目標達成には至らなかった。しかし、実施延べ数は 1000 名以上で安定している。</p> <p>2 職域連携による普及啓発</p> <p>健康教育実施回数：1 回 参加人数：30 名（平成 29 年 3 月 31 日現在）</p> <p>前年度より回数、人数は減少している。例年、健康教育によるアンケートにて運動習慣についての情報収集を実施しているが、今年度はアンケート実施ができなかった。働く世代への働きかけや事業参加は困難な面が多いため、依頼を受けた健康教育の機会を活用することは効果的であると判断する。</p> <p>ウォーキングの推進について、職域での健康教育は職務時間内であることが多く、屋外でウォーキングをすることは難しい状況である。職域の担当者と職員の運動習慣について情報交換をするなど若い世代の運動状況を把握していくことも重要と思われる。</p>
Act 改善	<p>1 サポーター養成講座</p> <p>申込み人数が減少しているため、周知の工夫について検討していきたい。</p> <p>市民への健康教育の実施</p> <p>サポーターの活動により一定の成果が得られ、活動が定着してきているが、健康教育人数は減少し、サポーターの活動状況による参加数の変化やサポーターの高齢化の課題もある。今後も保健所として、健康教育の周知・啓発に力を入れ、サポーター支援を継続する。</p> <p>2 職域連携による普及啓発</p> <p>健康教育の周知は引続き継続し、職員の運動状況や生活習慣病の状況など担当者との情報交換を行うなど、若い世代の運動習慣を把握し、適切な介入方法を見出すことが必要である。</p>

【平成 29 年度計画】

小樽市健康増進計画施策に基づく具体的方策

作成者氏名：（ 横尾 陽子 ）

施 策	ウォーキングの推進
事業名	小樽健康づくりウォーキング推進事業
事業費	小樽健康づくりウォーキング推進事業費
Plan 活動計画 (目的・目標)	<p>1 ウォーキングサポーターを養成し、サポーターによる市民への健康教育を実施する。</p> <p>目的：①ウォーキング及びノルディックウォーキングを普及する人材となるウォーキングサポーター（以下、サポーターとする）を養成する。</p> <p>②ウォーキングに対する正しい知識をもつ市民の増加及び定期的なウォーキング習慣を持つ市民の増加を目指す。</p>

	<p>目標：①サポーターを 20 名養成する。 ②健康教育に延べ 2,000 人の市民が参加する。</p> <p>2 職域連携による普及啓発</p> <p>目的：働く世代から定期的な運動習慣の必要性について、ウォーキングを通じた普及啓発を図る。</p> <p>目標：健康教育参加者数が増加する。(職域・ウォーキング関係)</p>
<p>Do 実践 (対象、方法、 時期など)</p>	<p>【平成 29 年度実施計画】</p> <p>1 ウォーキングサポーターを養成し、サポーターによる市民への健康教育を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 10/6,13,20,27,11/10 の全 5 回 (全て金曜日) に養成講座を開催する ・ 依頼のあった町内会、施設、企業、団体及び個人に対し、ウォーキングの普及啓発を行う。 ・ サポーターによる市民への普及啓発を支援する。 <p>2 職域連携による普及啓発</p> <p>職域での健康教育実施時にあわせて、ウォーキングの普及啓発を図る。 健康教育用アンケートにより、運動習慣について情報収集を行う。</p>
<p>Check モニタリング 評価</p>	

【平成 28 年度報告】

小樽市健康増進計画施策に基づく具体的方策

作成者氏名：(大口 利佳)

施 策	受動喫煙防止の推進
事業名	受動喫煙防止推進事業
事業費	健康教育事業費
Plan 活動計画 (目的 目標)	<p>1 おいしい空気の施設推進事業</p> <p>目的：多数の者が利用する施設の管理者などに対し、禁煙・適切な分煙の措置を講ずるよう促すとともに、禁煙・適切な分煙を実施している施設を公表し、禁煙・分煙の社会的な認識の定着を図り、市民の健康づくりに資することを目的とする。</p> <p>目標：おいしい空気の施設が増加する。(目標 250 か所)</p> <p>2 受動喫煙防止の環境づくり等の普及啓発</p> <p>目的：多数の者が利用する施設において、受動喫煙による健康影響を防止するため、広く市民に対し、受動喫煙防止の重要性を周知する。</p> <p>目標：世界禁煙デーにあわせて、関係機関にポスターを 100 枚配布し、市内における受動喫煙防止の啓発を行うことができる。</p>
Do 実践 (対象、方法、 時期など)	<p>【平成 28 年度実施計画】</p> <p>1 おいしい空気の施設推進事業</p> <p>あらゆる機会を利用し、事業周知を実施する。登録施設をホームページに公開する。(介護保険施設、官公庁、公衆浴場)</p> <p>おいしい空気の施設を市民が有効活用できるよう、チラシにより周知する。</p> <p>2 受動喫煙防止の環境づくり等の普及啓発</p> <p>世界禁煙デーにあわせ、ポスターを配布、FM おたるでの啓発を実施する。</p>
Check モニタリング 評価	<p>モニタリング：取組は計画どおり実施することができた。</p> <p>評価指標：</p> <p>おいしい空気の施設登録件数の増加(現状値(H23年度)65施設)</p> <p>成人の喫煙率の減少(現状値(H23年度)全体19.1% 男性25.2% 女性15.4%)</p> <p>評価：</p> <p>【評価の視点】</p> <p>1 おいしい空気の施設推進事業</p> <p>保健師1名で実施。</p> <p>【世界禁煙デーに併せた周知】</p> <p>市内関係機関に配布：ポスター160か所</p> <p>【年度内随時の周知】</p> <p>公衆浴場10か所、市内介護施設56か所、官公庁9か所</p> <p>食品衛生G～飲食店の登録など手続きの際に周知協力</p> <p>保健総務課(庶務・医薬SG)～病院・診療所、薬局の開設・移転などの手続きの際に、周知協力</p>

	<p>自殺予防チラシを市内飲食店に送付時同封 264 か所</p> <p>【ホームページ以外での登録施設周知】</p> <p>チラシを 3694 枚配布した。</p> <p>新規登録施設数： 12 件</p> <p>全登録施設数： 140 件（平成 29 年 3 月 31 日現在）</p> <p>啓発、登録業務は予定どおり実施することができた。周知により登録数の増加は見られているが、目標には達していない。今後も周知方法を工夫しながら継続していく。</p> <p>2 受動喫煙防止の環境づくり等の普及啓発</p> <p>保健師 1 名にて実施。</p> <p>市内関係機関 160 か所にポスターを送付し、目標を達成することができた。受動喫煙防止が市民に浸透していくためには、継続的な取組が必要と思われ、今後も取組を継続していくことが必要と判断する。</p>
Act 改善	<p>1 おいしい空気の施設推進事業</p> <p>本事業の周知と登録の促進のためには、周知が必要であり、平成 29 年度も周知を行う。市民がおいしい空気の施設を活用できるよう、チラシによる情報提供についても継続していく。</p> <p>2 受動喫煙防止の環境づくり等の普及啓発</p> <p>ポスターを活用した周知を実施していく。</p>

【平成 29 年度計画】

小樽市健康増進計画施策に基づく具体的方策

作成者氏名：（ 大口 利佳 ）

施 策	受動喫煙防止の推進
事業名	受動喫煙防止推進事業
事業費	健康教育事業費
Plan 活動計画 (目的 目標)	<p>1 おいしい空気の施設推進事業</p> <p>目的：多数の者が利用する施設の管理者などに対し、禁煙・適切な分煙の措置を講ずるよう促すとともに、禁煙・適切な分煙を実施している施設を公表し、禁煙・分煙の社会的な認識の定着を図り、市民の健康づくりに資することを目的とする。</p> <p>目標：おいしい空気の施設が増加する。（目標 300 か所）</p> <p>2 受動喫煙防止の環境づくり等の普及啓発</p> <p>目的：多数の者が利用する施設において、受動喫煙による健康影響を防止するため、広く市民に対し、受動喫煙防止の重要性を周知する。</p> <p>目標：世界禁煙デーにあわせて、関係機関にポスターを 100 枚配布し、市内における受動喫煙防止の啓発を行うことができる。</p>

<p>Do</p> <p>実践</p> <p>(対象、方法、 時期など)</p>	<p>【平成 29 年度実施計画】</p> <p>1 おいしい空気の施設推進事業</p> <p>あらゆる機会を利用し、事業周知を実施する。(薬局 約 80 か所、幼稚園 14 か所へ再勧奨、介護施設約 80 か所、大学・専門学校、銀行等へ勧奨)</p> <p>登録施設をホームページに公開する。</p> <p>おいしい空気の施設を市民が有効活用できるよう、チラシにより周知する。</p> <p>2 受動喫煙防止の環境づくり等の普及啓発</p> <p>世界禁煙デーにあわせ、ポスターを配布、FM おたるでの啓発を実施する。</p>
<p>Check</p> <p>モニタリング</p> <p>評価</p>	

【平成 28 年度報告】

小樽市健康増進計画施策に基づく具体的方策

作成者氏名：(中村 悦子)

施 策	(5) 禁煙の支援
事業名	禁煙宣言プロジェクト事業
事業費	健康相談事業費
Plan 活動計画 (目的 目標)	目的：禁煙を決意した人の禁煙宣言をホームページで公表することにより、禁煙に対する関心を高め、禁煙開始する人の増加を図る。 目標：禁煙宣言者の増加
Do 実践 (対象、方法、時期など)	【平成 28 年度実施】 禁煙宣言登録用紙を禁煙外来に配布し、禁煙外来受診者に勧めてもらうようにした。 配布時期は、5 月～6 月に配布（禁煙週間 5 月 31 日～6 月 6 日のため）
Check モニタリング 評価	モニタリング：登録者数と登録者の状況を記録していく。 評価指標：禁煙宣言登録者数 評価： ①ストラクチャー：通年実施。禁煙宣言の登録を受け月毎にホームページへ掲載する。登録用紙は、禁煙外来のみに配布し、配布枚数は各 30 枚ずつ 12 医療機関で、計 360 枚 ②プロセス：禁煙外来を訪問し登録を勧めていただけるようお願いする。登録用紙を単純化し記入しやすくした。経過を追うことが難しいため、登録用紙に個人情報を書かず、経過を追わないこととした。 ③アウトプット：登録用紙配布数は 360 枚で、昨年より大幅に減少 ④アウトカム：平成 28 年度末の禁煙宣言登録者数は 53 名で、27 年度登録者 12 名より大幅に増加した。(H29.3 月末) 平成 27 年度の禁煙外来受診者数は 178 名であることから、登録者を増やす工夫が必要である。
Act 改善	禁煙宣言の登録だけを目的とすれば、禁煙外来からの登録者募集でよいかもしれないが、禁煙外来では治療に当たり禁煙宣言をしてもらっているところもあり、保健所への禁煙宣言の登録は意義が少ない。受動喫煙防止が拡大し喫煙しにくい環境になれば、禁煙する方は増加すると思われるので、個人の禁煙支援としては、既存の支援情報の周知や、市内の薬局、歯科医院などとの連携も考える必要がある。

【平成 29 年度計画】

小樽市健康増進計画施策に基づく具体的方策

作成者氏名：(中村 悦子)

施 策	(5) 禁煙の支援
事業名	禁煙宣言プロジェクト事業
事業費	健康相談事業費
Plan 活動計画(目的 目標)	目的：禁煙宣言登録者数を示すことで禁煙開始者の増加につなげる。 目標：禁煙宣言登録者の増加
Do 実践 (対象、方法、時期など)	対象：禁煙を決意した人（禁煙外来受診者）と禁煙したい人（市民） 方法：禁煙外来へ登録用紙を配布し周知する。 月 1 回ホームページにより市民へ周知する。 時期：6 月より登録用紙を禁煙外来へ配布する。 登録募集は年間を通じて行う。
Check モニタリング 評価	モニタリング：登録者数と登録者の状況を記録していく。 評価指標：禁煙宣言登録者数

【平成 28 年度報告】

小樽市健康増進計画施策に基づく具体的方策

作成者氏名：(菊地 郁子)

施 策	食品中の食塩や脂肪の低減に取り組む飲食店などの登録件数の増加
事業名	「おたる・ヘルシーメニュー」事業
事業費	栄養改善対策費
Plan 活動計画 (目的 目標)	目的：食事療法中の方や、生活習慣病予防に興味のある市民の方にもおいしく、エネルギー等を心配せず安心して外食を楽しめる環境を整備する。 目標：食品中の食塩や脂肪の低減に取り組む飲食店などの登録件数の増加 (「おたる・ヘルシーメニュー」事業登録件数 (合計) 20 件)
Do 実践 (対象、方法、 時期など)	市内飲食店などにて (1 食あたり) 「おたる・スーパーヘルシーメニュー」：エネルギー600kcal 食塩相当量 3g 以内のメニューを提供 「おたる・ヘルシーメニュー」：エネルギー600kcal 以内のメニューを提供 「おたる・ヘルシースイーツ」：エネルギー100kcal 以内のスイーツを提供 【平成 28 年度実施計画】 事業周知：「おたる・ヘルシーメニュー」事業について関係団体等の協力を得て 市内飲食店へ周知 (市内飲食店へちらしの郵送、市 HP 掲載等) 小樽市食生活展にてパネル展示 登録業務：登録希望店からの献立の栄養価計算実施 市民向け登録店の周知(市 HP、FMおたる、フリーペーパーWa-O! 掲載、健康教育にてリーフレット配布等)
Check モニタリング 評価	【モニタリング】 平成 28 年度実施計画に基づき事業周知等を実施したが、登録店増加に結びついていない。 評価： 【評価の視点】 ストラクチャー (構造) 保健所栄養士 1 名で事業周知を実施。保健所栄養士 (1 名) 及び嘱託栄養士 (1 名) で栄養価計算の実施。各飲食店へのきめ細やかな対応は難しい状況。 プロセス (過程) 「食事療法中の方や、生活習慣病予防に興味のある市民の方においしく、エネルギー等を心配せず安心して食べていただくお店を増やす」を目標に設定し、事業周知及び登録店のリーフレット等の配布をした。事業周知により反応はあるが、登録には結びついていない。今後の対応を検討する必要がある。 アウトプット (事業実施量) ① 「おたる・ヘルシーメニュー」事業紹介のリーフレット配布 ② 「おたる・ヘルシーメニュー」登録店のリーフレット配布

	<p>アウトカム（結果）</p> <p>達成度：登録店の増加</p> <p>平成 28 年 1 件の登録があり、平成 28 年度末現在 7 件（6 店舗）</p>
Act 改善	<p>登録件数が伸び悩んでいるので、事業の周知及び登録店 P R の方法については改善が必要である。事業周知により一定程度の反応はあるが、登録までには至らないので、今後は登録に結びつくような支援の検討が必要である。</p>

【平成 29 年度計画】

小樽市健康増進計画施策に基づく具体的方策

作成者氏名：（ 菊地 郁子 ）

施 策	食品中の食塩や脂肪の低減に取り組む飲食店などの登録件数の増加
事業名	「おたる・ヘルシーメニュー」事業
事業費	栄養改善対策費
Plan 活動計画 (目的 目標)	<p>目的：食事療法中の方や、生活習慣病予防に興味のある市民の方にもおいしく、エネルギー等を心配せず安心して外食を楽しめる環境を整備する。</p> <p>目標：食品中の食塩や脂肪の低減に取り組む飲食店などの登録件数の増加 （「おたる・ヘルシーメニュー」事業登録件数（合計）25 件）</p>
Do 実践 (対象、方法、 時期など)	<p>市内飲食店などにて（1 食あたり）</p> <p>「おたる・スーパーヘルシーメニュー」：エネルギー600kcal 食塩相当量 3 g 以内のメニューを提供</p> <p>「おたる・ヘルシーメニュー」：エネルギー600kcal 以内のメニューを提供</p> <p>「おたる・ヘルシースイーツ」：エネルギー100kcal 以内のスイーツを提供</p> <p>【平成 29 年度実施計画】</p> <p>事業周知：「おたる・ヘルシーメニュー」事業について関係団体等の協力を得て、市内飲食店へ周知（市 HP 等）</p> <p>小樽市食生活展にてパネル展示</p> <p>登録業務：登録希望店からの献立の栄養価計算の実施</p> <p>市民向け登録店の周知：市 HP、健康教育にて登録店周知のリーフレット等配布</p>
Check モニタリング 評価	

【平成 28 年度報告】

小樽市健康増進計画施策に基づく具体的方策

作成者氏名：(菊地 郁子)

施 策	毎日朝食をとる人の増加・家族の誰かと一緒に朝食をとる割合の増加（食育）
事業名	栄養改善事業
事業費	栄養改善対策費
Plan 活動計画 (目的 目標)	目的：市民に朝食の重要性と家族で規則正しい食習慣を実践できるように正しい知識を普及・啓発する。 目標：毎日朝食をとる人の増加、家族の誰かと一緒に朝食をとる割合の増加 (正しい食習慣の周知リーフレット配布数：6,000 枚)
Do 実践 (対象、方法、 時期など)	下記、事業において、リーフレットを配布し、正しい知識の普及を実施する。 【平成 28 年度実施計画】 1 キッズクッキング：対象 幼児・児童と保護者 方法 正しい知識の普及（講話・調理実習） リーフレットを使用し正しい知識の普及 回数 年 4 回（7/26,7/29,1/6,1/12） 2 栄養相談：対象 乳幼児健診時の栄養相談 カンガルークラブ参加者の栄養相談 各種栄養改善事業参加者等の栄養相談 方法 リーフレット（食育だよりなど）を使用し正しい知識の普及 時期 通年
Check モニタリング 評価	【モニタリング】 平成 28 年度実施計画に基づき、普及啓発を実施した。 評価： 【評価の視点】 ストラクチャー（構造） 保健所栄養士 1 名及び嘱託栄養士 2 名による事業参加対象者に周知・普及。 プロセス（過程） 「正しい食習慣をもつ市民を増加する」を目標に設定し、リーフレット等を使用し、知識の普及・啓発を実施した。 参加者へ事業終了後に実施しているアンケート結果から、知識としては理解できているようだが、実践となると難しいようである。今後は実践を継続していきけるような支援の方法を検討していきたい。 アウトプット（事業実施量） 上記、事業において正しい食習慣を周知するリーフレットを作成し、配布及び講話等で説明。

	平成 28 年度末現在 リーフレット 7,438 枚配布 アウトカム (結果) 達成目標：毎日朝食をとる人の増加 家族の誰かと一緒に朝食をとる人の増加 平成 28 年度に実施した中間評価アンケートでは、83.2%に増加した。(前回 81.7% (小樽市食育推進計画策定時 (平成 21 年))
Act 改善	今後も、周知・啓発に力を入れ、これまでどおりの実施を継続する。

【平成 29 年度計画】

小樽市健康増進計画施策に基づく具体的方策

作成者氏名：(菊地 郁子)

施 策	毎日朝食をとる人の増加・家族の誰かと一緒に朝食をとる割合の増加 (食育)
事業名	栄養改善事業
事業費	栄養改善対策費
Plan 活動計画	目的：市民に朝食の重要性と家族で規則正しい食習慣を実践できるように正しい知識を普及・啓発する。
(目的 目標)	目標：毎日朝食をとる人の増加、家族の誰かと一緒に朝食をとる割合の増加 (正しい食習慣の周知リーフレット配布数：6,000 枚)
Do 実践 (対象、方法、 時期など)	下記、事業において、リーフレットを配布し、正しい知識の普及を実施する。 【平成 29 年度実施計画】 1 キッズクッキング：対象 幼児・児童と保護者 方法 正しい知識の普及 (講話・調理実習) リーフレットを使用し正しい知識の普及 回数 年 4 回 (7/25,7/28,1/10,1/16) 2 栄養相談：対象 乳幼児健診時の栄養相談 カンガルークラブ参加者の栄養相談 各種栄養改善事業参加者等の栄養相談 方法 リーフレット (食育だよりなど) を使用し正しい知識の普及 時期 通年
Check モニタリング 評価	

【平成 28 年度報告】

小樽市健康増進計画施策に基づく具体的方策

作成者氏名：(菊地 郁子)

施 策	「栄養成分表示の店」登録件数の増加（食育）
事業名	「栄養成分表示の店」推進事業
事業費	栄養改善対策費
Plan 活動計画 (目的 目標)	目的：食生活は多様化しており、健康を維持するには、家庭の食事だけではなく上手に外食などを利用して食生活全体を管理することが大切になっている。 よりよい食生活を選択でき、健康管理を行うことができるよう、飲食店などのメニューに「栄養成分表示」をしてもらい、外食利用者が適切な栄養情報を得ることができる環境を整備する。 目標：「栄養成分表示の店」の登録店の増加
Do 実践 (対象、方法、 時期など)	【平成 28 年度実施計画】 ① 「栄養成分表示の店」推進事業の周知（市 HP 等） ② 登録業務：登録希望店から提出された届出書・栄養算定表・栄養表示例を確認し、公表（市 HP 掲載、ステッカー発行）
Check モニタリング 評価	【モニタリング】 平成 28 年度実施計画に基づいた実施ができた。 評価： 【評価の視点】 ストラクチャー（構造） 保健所栄養士 1 名にて実施。 プロセス（過程） 「市民の快適な食生活や良好な健康づくりの環境整備ができる」を目標に設定し、登録希望店から、届出書類等の提出後、登録業務を実施した。 アウトプット（事業実施量） 登録店について市 HP、北海道 HP にて紹介 アウトカム（結果） 達成度：登録店の増加 平成 28 年度は新規登録がなかった。 平成 28 年度末現在 57 件
Act 改善	今後も、これまでどおりの実施を継続する。

【平成 29 年度計画】

小樽市健康増進計画施策に基づく具体的方策

作成者氏名：(菊地 郁子)

施 策	「栄養成分表示の店」登録件数の増加（食育）
事業名	「栄養成分表示の店」推進事業
事業費	栄養改善対策費
Plan 活動計画 (目的 目標)	目的：食生活は多様化しており、健康を維持するには、家庭の食事だけではなく上手に外食などを利用して食生活全体を管理することが大切になっている。 よりよい食生活を選択でき、健康管理を行うことができるよう、飲食店などのメニューに「栄養成分表示」をしてもらい、外食利用者が適切な栄養情報を得ることができる環境を整備する。 目標：「栄養成分表示の店」の登録店の増加
Do 実践 (対象、方法、 時期など)	【平成 29 年度実施計画】 ① 「栄養成分表示の店」推進事業の周知（市 HP 等） ② 登録 業務：登録希望店から提出された届出書・栄養算定表・栄養表示例を確認し、公表（市 HP 掲載、ステッカー発行）
Check モニタリング 評価	

【平成 28 年度報告】

小樽市健康増進計画施策に基づく具体的方策

作成者氏名：(菊地 郁子)

施 策	食事バランスガイドを参考にしたい割合の増加（食育）
事業名	栄養改善事業
事業費	栄養改善対策費
Plan 活動計画 (目的 目標)	目的：市民が自らの食生活を見直すことにつながる正しい知識の普及・啓発。 目標：食事バランスガイドを参考に食事をする市民の増加。 (食事バランスガイド普及のリーフレット配布数：3,000 枚)
Do 実践 (対象、方法、 時期など)	栄養改善事業全てにおいて、リーフレットを配布し、情報提供及び普及・啓発を実施。 【平成 28 年度実施計画】 情報提供：①特定給食施設・給食施設の栄養管理担当者研修会（10/18,3/9） 普及啓発：②小樽市食生活改善推進員養成講座（6/17,6/30,8/25） ③キッズクッキング（7/26,7/29,1/6,1/12） ④離乳食講習会（5/19,7/21,9/8,11/17,1/19,3/16） ⑤プロから学ぶ食育講座（3/28） ⑥小樽市食生活展（9/15） ⑦健康教育 ⑧栄養相談 * 小樽市食生活展では、来場者を対象に講話を実施（2 回）
Check モニタリング 評価	【モニタリング】 平成 28 年度実施計画に基づき、普及啓発を実施した。 評価： 【評価の視点】 ストラクチャー（構造） 保健所栄養士 1 名及び嘱託栄養士 2 名による栄養改善事業参加対象者に周知・普及。 プロセス（過程） 「バランスのよい食事をする市民の増加」を目標に設定し、リーフレット等を使用し、自分の適切な量やバランスの良い食事についての知識を普及・啓発した。 参加者へ事業終了後に実施しているアンケート結果から、知識としては理解できているようだが、実践・継続となると難しいようである。今後は実践を継続していけるような支援の方法を検討していきたい。 アウトプット（事業実施量） 上記、栄養改善事業において食事バランスガイド普及リーフレットの配布、説明。 平成 28 年度末現在 リーフレット 5,473 枚配布

	<p>アウトカム（結果）</p> <p>達成度：食事バランスガイドを参考にしたい割合の増加 （食事の栄養バランスを意識し、改善しようとする取り組み割合の増加）</p> <p>平成 28 年度に実施した中間評価アンケートでは、81.2%に増加した。（前回 49.2% （小樽市食育推進計画策定時（平成 21 年））認知度については増加していると思われる。</p>
Act 改善	今後も周知・啓発に力を入れ、これまでどおりの実施を継続する。

【平成 29 年度計画】

小樽市健康増進計画施策に基づく具体的方策

作成者氏名：（ 菊地 郁子 ）

施 策	食事バランスガイドを参考にしたい割合の増加（食育）
事業名	栄養改善事業
事業費	栄養改善対策費
Plan 活動計画 （目的 目標）	<p>目的：市民が自らの食生活を見直すことにつながる正しい知識の普及・啓発。</p> <p>目標：食事バランスガイドを参考に食事をする市民の増加。 （食事バランスガイド普及のリーフレット配布数：3,000 枚）</p>
Do 実践 （対象、方法、 時期など）	<p>栄養改善事業全てにおいてリーフレットを配布し、情報提供及び普及・啓発を実施する。</p> <p>【平成 29 年度実施計画】</p> <p>情報提供：①特定給食施設・給食施設の栄養管理担当者研修会（10/12,3/13） 普及啓発：②小樽市食生活改善推進員養成講座（6/15,6/29,8/24） ③キッズクッキング（7/25,7/28,1/10,1/16） ④離乳食講習会（5/18,7/20,9/21,11/16,1/18,3/22） ⑤プロから学ぶ食育講座（未定） ⑥小樽市食生活展（9/14） ⑦健康教育 ⑧栄養相談</p>
Check モニタリング 評価	

【平成 28 年度報告】

小樽市健康増進計画施策に基づく具体的方策

作成者氏名：(小久保 英美子)

施 策	悩みの相談窓口の周知啓発推進
事業名	「こころの健康相談」周知啓発活動
事業費	精神保健対策費、地域自殺対策緊急強化推進事業費
Plan 活動計画 (目的、目標)	目的： 保健所「こころの健康相談」（精神保健福祉相談事業）について、広く市民に周知啓発する。 目標： 年度内に市民及び関係機関に対し、事業の啓発用ちらしを 2,500 枚以上配付し、周知を図る。
Do 実践 (対象、方法、 時期など)	[平成 28 年度実施状況] 1 街頭啓発キャンペーン（上半期 1 回・下半期 1 回）の実施 ・年 2 回、福祉部障害福祉課と連携して実施（ほほえみフェスタ） ・ちらしを封入したポケットティッシュを配布 2 介護保険施設等（86 か所）へ啓発用ちらしを送付（4 月） ・地域自殺対策事業と併せて実施 3 平成 28 年度 相談援助技術専門研修事業における啓発（年 1 回） ・研修会の目的、内容、参加対象施設などを検討 ・6 月実施予定 4 関係機関（300 か所）へ啓発用ちらしを送付（3 月） ・地域自殺対策事業と併せて実施 5 通常業務における普及啓発活動（随時） ・健康教育における啓発（通年） ・保健所玄関に、ちらしを封入したポケットティッシュを設置（通年） ・FMおたる、広報おたるにおける啓発
Check モニタリング 評価	モニタリング： 計画に沿った実施ができている。 評価指標： ・主指標 こころの健康相談の周知と相談機関地域連携を目的とした研修会への参加施設数（平成 28 年度目標 60 施設） ・副指標 こころの健康相談に関する啓発用ちらしの配布数（平成 28 年度目標 2,500 枚） 評価： 【評価の視点】①ストラクチャー ②プロセス ③アウトプット ④アウトカム 1 街頭啓発キャンペーン（8/26、12/8）の実施 ① 地域保健サブグループ 2 名（相談員 1 名、事務補助員 1 名）で実施

人員に問題なく対応することができた。ちらしを封入したポケットティッシュも予算内で対応できた。

- ② ポケットティッシュに入れて配布したこともあり、受け取る市民が多かった。市民に対する啓発方法としては、有効であると判断される。
- ③ 2回実施し、市民2,000人にちらしを配布
- ④ 街頭啓発キャンペーンにおいて、保健所職員が直接市民と接することにより、こころの健康相談に関する意見（相談事業を知らなかった、困ったときは相談したい、など）を聞くことができ、啓発する機会となった。

2 障害者施設及び介護保険施設（86 か所）へ啓発用ちらしを送付（4/20）

- ① 地域保健サブグループ2名（相談員1名、事務補助員1名）で実施
人員に問題なく対応することができた。ちらしの送付については、地域自殺対策事業と併せて実施しており、予算内で対応できた。
- ② 障害者施設、介護保険施設に対し、自殺予防とこころの健康相談に関するちらしを配布することにより、街頭キャンペーン等では周知を図ることができない対象者への啓発を実施することができた。
- ③ 86か所にちらしを配布
- ④ 計画どおりの周知を行うことができた。

3 平成28年度 相談援助技術専門研修事業における啓発（6/21）

- ① 地域保健サブグループ2名（相談員1名、保健師1名）で実施
人員に問題なく対応することができた。研修会に合わせて配布したため、郵送料も必要なく、予算内で対応できた。
- ② 市民からの相談を受ける立場にある関係機関への啓発を図ることができた。
- ③ 参加施設数 54施設（参加者92名）
- ④ 啓発は計画どおり実施できたが、参加施設数は28年度目標（60施設）を達成できなかった。

4 関係機関（300 か所）へ啓発用ちらしを送付（9/1、3/1）

- ① 地域保健サブグループ2名（相談員1名、事務補助員1名）で実施
人員に問題なく対応することができた。ちらしの送付については、地域自殺対策事業と併せて実施しており、予算内で対応できた。
- ② 市内公共施設や学校、飲食業の事業所に対し、自殺予防とこころの健康相談に関するちらしを配布することにより、街頭キャンペーン等では周知を図ることができない対象者への啓発を実施することができた。
- ③ 354か所にちらしを配布
- ④ 計画どおりの周知を行うことができた。

5 通常業務における普及啓発活動（随時）

・健康教育における啓発（年3回実施）

- ① 地域保健サブグループ1名（相談員1名）で実施
人員に問題なく対応することができた。
- ② 健康教育における啓発においては、予算が不要であるため、市民に対して効率

的に周知できる機会であると判断されるが、健康教育の申込みが減少している
ので、周知の機会も減っている。

- ③ 計3回、49人に「こころの健康相談」を周知
- ④ 健康教育の場を通じて、「こころの健康相談」の周知が可能となり、ストレス
や悩みに関する専門相談窓口としての認識を広めることができた。
 - ・保健所玄関に、ちらしを封入したポケットティッシュを設置（通年）
- ① 地域保健サブグループ2名（相談員1名、事務補助員1名）で実施
人員に問題なく対応することができた。ちらしを封入したポケットティッシュ
も予算内で対応できた。
- ② ポケットティッシュに入れて配布したこともあり、受け取る市民が多かった。
市民に対する啓発方法としては、有効であると判断される。
- ③ 市民1,000人に配布
- ④ 計画どおりの周知を行うことができた。
 - ・FMおたる、広報おたるにおける啓発
- ① 地域保健サブグループ1名（相談員1名）で実施
人員に問題なく対応することができた。
- ② FMおたると広報おたるにて、市民全域に周知啓発を行うことにより、幅広い
市民にストレスや悩みに関する専門相談窓口としての認識を広めることがで
きた。
- ③ FMおたるにて1回啓発を行う。広報おたるは、ひきこもり特集記事とこころ
の健康相談の特集記事、計2回「こころの健康相談」の掲載を行った。
- ④ 広報おたるを見て、こころの健康相談を行う市民が数名いたので、周知として
は効果的であった。
 - ・第60回精神保健北海道大会における啓発
- ① 地域保健サブグループ2名（相談員1名、保健師1名）で実施
人員に問題なく対応することができた。
- ② パンフレットにこころの健康相談のちらしを同封。
- ③ 大会参加者250名に配布
- ④ 精神保健に関心がある市民に向けて、相談窓口を周知することができた。

事業全体の共通内容

各周知啓発活動が直接的にこころの健康相談件数の増加に結びつくものではな
いが（平成27年度493件、平成27年度420件）、次のとおり一定の効果が得ら
れたと判断する。

- ・こころの健康相談のちらし配布数は合計3,847枚となり、年度目標（2,500枚）
を上回る結果となった。
- ・街頭啓発キャンペーンや広報おたるの記事をきっかけとして、相談に結びつ
いた市民が数名いた。

Act 改善	<p>1 街頭啓発キャンペーンの実施 市民に対する啓発としてポケットティッシュを用いることで、市民に興味を持ってもらうことに効果的であるため、今後も実施継続していく。</p> <p>2 介護保険施設等への啓発 街頭キャンペーン等では周知を図ることができない対象者への周知を図ることができているため、今後も実施継続していく。</p> <p>3 相談援助技術専門研修事業における啓発 啓発は実施できたが、参加施設数の目標を達成することができなかったため、研修会の目的、内容、参加対象施設などを検討していくことが必要である。</p> <p>4 関係機関（300 か所）への啓発 ストレスチェック制度の導入により、一般企業でのメンタルヘルス予防への関心が高まっているので、今後も実施継続していく。</p> <p>5 通常業務における普及啓発活動 健康教育、広報おたる、FMおたるにおける啓発は、市民に対する効率的な周知方法であるため、今後も実施継続していく。 保健所玄関におけるちらしを封入したポケットティッシュの配布は、市民に興味を持ってもらうことに効果的であるため、今後も実施継続していく。</p>
-----------	--

【平成 29 年度計画】

小樽市健康増進計画施策に基づく具体的方策

作成者氏名：（ 小久保 英美子 ）

施 策	悩みの相談窓口の周知啓発推進
事業名	「こころの健康相談」周知啓発活動
事業費	精神保健対策費・地域自殺対策緊急強化推進事業費
Plan 活動計画 (目的 目標)	<p>目的： 保健所「こころの健康相談」（精神保健福祉相談事業）について、広く市民に周知啓発する。</p> <p>目標： 年度内に市民及び関係機関に対し、事業の啓発用ちらしを 2,500 枚以上配付し、周知を図る。</p>
Do 実践 (対象、方法、 時期など)	<p>[平成 29 年度実施予定計画]</p> <p>1 街頭啓発キャンペーン（上半期 1 回・下半期 1 回）の実施 ・年 2 回、福祉部障害福祉課と連携して実施（ほほえみフェスタ） ・ちらしを封入したポケットティッシュを配布</p> <p>2 介護保険施設等（86 か所）へ啓発用ちらしを送付（4 月） ・地域自殺対策事業と併せて実施</p> <p>3 平成 29 年度 相談援助技術専門研修事業における啓発（年 1 回） ・研修会の目的、内容、参加対象施設などを検討 ・10 月実施予定</p> <p>4 関係機関（300 か所）へ啓発用ちらしを送付（9 月、3 月）</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・地域自殺対策事業と併せて実施 <p>5 通常業務における普及啓発活動（随時）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康教育における啓発（通年） ・保健所玄関に、ちらしを封入したポケットティッシュを設置（通年） ・FMおたる、広報おたるにおける啓発
<p>Check モニタリング 評価</p>	

【平成 28 年度報告】

小樽市健康増進計画施策に基づく具体的方策

作成者氏名：(中村 悦子)

施 策	効果的な歯磨きの普及
事業名	① 効果的な歯磨きの普及事業
事業費	歯周病対策事業費
Plan 活動計画 (目的目標)	目的：歯周病予防 目標：歯間ブラシ使用者の増加 健康教育などを通じて情報提供するために、歯周病チェックリストとともにリーフレットを配布する。
Do 実践 (対象、方法、 時期など)	【平成 28 年度実施計画】 効果的な歯磨きについて情報提供 リーフレット作成：歯周病チェックリストとともに効果的な歯磨きとして歯磨きや歯間ブラシ、PMTC などの情報を載せる。 配布対象などは、歯周病チェックリストと同様で、健康教育や幼児健診の機会に配布する。年間を通じて行う。
Check モニタリング 評価	モニタリング:効果的な歯磨きのリーフレット配布を記録する。 評価指標：リーフレット配布枚数 ① ストラクチャー ・歯周病チェックリストと同時に行うことで効率的に配布できる。 ・保育施設の協力を得ることで、多くの保護者に届けることができる。 ② プロセス ・歯ブラシ、歯間ブラシの使用方法を図だけで示すことの限界がある。 ・イベント等の情報を得て、配布できるよう依頼している。 ③ アウトプット 配布枚数・・・2,178 枚 (H29.3 月末) 3 歳児健康診査の際に配布 (627 枚) 健康教育、食生活展などの際に配布 (191 枚) いい歯の日イベントでの配布 (113 枚) 保育施設を通じて配布 (1,247 枚) ④ アウトカム 中間評価アンケート結果によると、歯間ブラシの使用で「毎日使用する」と「時々使用する」を合わせると 41.4%となり、策定時の 35.7%を 5.7 ポイント上回り、改善した。
Act 改善	歯間ブラシの使用法などのインターネット上の動画の URL をリーフレットで紹介することで、直接指導ができないことを補う。

【平成 29 年度計画】

小樽市健康増進計画施策に基づく具体的方策

作成者氏名：(中村 悦子)

施 策	効果的な歯磨きの普及
事業名	② 効果的な歯磨きの普及事業
事業費	歯科保健事業費
Plan 活動計画 (目的目標)	目的：歯周病予防 目標：日常的に歯間部清掃用具を使用する人の増加 活動計画：幼児の健診の際に、親への情報提供を続ける。 イベント時にリーフレットを配布する。
Do 実践 (対象、方法、 時期など)	リーフレット配布を行う。 対象として、1歳6ヶ月児健診の保護者とし、指導の際に手渡し、及び歯間ブラシを配布し、説明することを通年行う。 イベント時は適宜配布する。
Check モニタリング 評価	モニタリング：効果的な歯磨きのリーフレット配布を記録する。 評価指標：リーフレット配布枚数

【平成 28 年度報告】

小樽市健康増進計画施策に基づく具体的方策

作成者氏名：(中村 悦子)

施 策	(2) 歯周病セルフチェックの普及
事業名	②歯周病セルフチェックの普及事業
事業費	歯科保健事業費
Plan 活動計画 (目的 目標)	目的：進行した歯周病の減少 目標：歯周病セルフチェックにより、自分の歯肉状態に注目し、必要に応じ歯科受診できるようにする。
Do 実践 (対象、方法、 時期など)	【平成 28 年度実施計画】 1. 歯周病チェックリストの配布 対象 3 歳児健診の (母) 親・・・保健指導の際に手渡し 健康教育受講者やイベント他・・・他の資料とともに配布 保育施設歯科健診時・・・他の資料とともに配布
Check モニタリング 評価	モニタリング：継続的にチェックリストの配布数を記録する。 評価指標：チェックリスト配布枚数 H27 年度の配布枚数は 2,178 枚 (実績) 評価：【評価の視点】 1. ストラクチャー チェックリストの配布対象としては、上記の対象者年齢は適切である。 2. プロセス 保育施設での配布については、各施設へ配布を依頼できた。 セルフチェックリストは同じ内容であることから、保育施設などへ毎年配布はできない。 3. アウトプット (H28 年度末) 2,178 枚 3 歳児健康診査の際に配布 (627 枚) 健康教育、食生活展などの際に配布 (191 枚) いい歯の日イベントでの配布 (113 枚) 保育施設を通じて配布 (1,247 枚) 4. アウトカム 中間評価アンケートの結果、歯周病についての目標 ①40 歳代で進行した歯周病を有する人は、30.9%から 25.9%に減少 ②60 歳代で 24 歯以上の歯を持つ人は 38.7%から 47.7%に増加と 平成 34 年度の目標値には届いていない (①は 25.0% ②は 50.0%) が、大幅に改善している。
Act 改善	歯周病セルフチェックリストの積極的配布は休止し、時に応じて配布またはホームページ活用する。平成 28 年度より歯周病対策として開始した事業 (あなたの歯は何本? 事業) などへシフトする。

【平成 29 年度計画】

小樽市健康増進計画施策に基づく具体的方策

作成者氏名：(中村 悦子)

施 策	(2) 歯周病セルフチェックの普及
事業名	②歯周病セルフチェックの普及事業
事業費	歯科保健事業費
Plan 活動計画 (目的 目標)	目的：進行した歯周病の減少 目標：歯科受診の必要性を認識し、定期的な歯科受診へつなげる
Do 実践 (対象、方法、 時期など)	歯周病セルフチェックリストについては、積極的な配布は休止する。 ・ 現行のチェックリストについては、保健所ホームページに掲載する。 ・ 日本歯科医師会が行っている、インターネットでできる「生活支援プログラムの歯周病チェック」を周知する。 ・ あなたの歯は何本事業で、歯科医院で歯周病予防のリーフレット配布をお願いする。
Check モニタリング 評価	歯周病チェックリストの配布は、健康教育の際などに行うことはあるが積極的な配布は休止することから、歯周病チェックリストについては、モニタリングは行わない。

【平成 28 年度報告】

小樽市健康増進計画施策に基づく具体的方策

作成者：(藤川 泰恵)

施 策	むし歯の無い 3 歳児を増やす (80%以上)						
事業名	(3) 子供のむし歯予防対策事業						
事業費	歯科保健事業費						
Plan 活動計画 (目的目標)	目的：乳歯列完成期 (3~4 歳) のむし歯の無い子供を増やす 目標：むし歯の無い 3 歳児を 80%以上にする (策定時 69.8%)						
	年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28
	むし歯なし	69.8%	76.2%	79.3%	79.0%	80.6%	81.0%
Do 実践 (対象、方法、 時期など)	<p>① 3 歳児健康診査までに 3 回以上のフッ化物歯面塗布経験児の割合を 40%以上に維持するため、あらゆる歯科口腔保健事業の場でフッ化物歯面塗布の必要性和効果について情報提供を行う。</p> <p>② 小樽の子供のむし歯の罹患型において、A 型 (上前歯あるいは奥歯のみのむし歯) が他都市に比べて高い罹患率であるため、上の前歯のむし歯に着目し、予防対策を実施する。</p>						
Check モニタリング 評価	<p>モニタリング：</p> <p>①②それぞれの現状値については、3 歳児健康診査受診時に随時把握</p> <p>【評価の視点】</p> <p>1. ストラクチャー スタッフの人数⇒職員 2 名 (歯科医師、歯科衛生士)、嘱託 3 名 (歯科衛生士) 他機関との連携⇒福祉部子育て支援課・子育て支援団体等・児童福祉施設</p> <p>2. プロセス 1 歳 6 か月児健康診査時のリスク診断に基づき、その場でフロッシング指導を実施し、1 年半後の 3 歳児歯科健康診査の受診結果により効果判定する。 判定結果を 1 歳 6 か月児健康診査時の取組にフィードバックし、目標達成を計る。</p> <p>3. アウトプット ①の具体的取組 ア. 母子健康手帳への次期来所予定月のお知らせ 実績 1,388 人 イ. 塗布回数とむし歯減少についてのリーフレットを配布 実績 2,764 枚 ②の具体的取組 ア. 1 歳 6 か月児健康診査時のフロッシング指導数 実績 223 人 イ. 口腔ケアについてのリーフレットを配布 実績 5,490 枚</p> <p>4. アウトカム 評価指標：むし歯のない 3 歳児を 80%以上にするために ① 3 回以上のフッ化物歯面塗布経験児の増加⇒40%以上を維持 (策定時 27.4%) 実績 40.8% ② 上の前歯のみのむし歯⇒7%以下にする (策定時 13.8%) 実績 9.0%</p>						

Act 改善	実績値について、単年度評価では年次推移的に変動巾があり、見づらいことから、目標値及び評価指標については、今年度より単年度ではなく過去2年間を加えた3年度分の平均値で表記することにした。
-----------	--

【平成29年度計画】

小樽市健康増進計画施策に基づく具体的方策

作成者：(藤川 泰恵)

施 策	むし歯の無い3歳児を増やす(80%以上)
事業名	(3) 子供のむし歯予防対策事業
事業費	歯科保健事業費
Plan 活動計画 (目的目標)	目的：乳歯列完成期(3~4歳)のむし歯の無い子供を増やす 目標：むし歯の無い3歳児を80%以上にする(策定時69.8%)
Do 実践 (対象、方法、 時期など)	① 3歳児健康診査までに3回以上のフッ化物歯面塗布経験児の割合を40%以上に維持するため、あらゆる歯科口腔保健事業の場でフッ化物歯面塗布の必要性と効果について情報提供を行う。 ② 小樽の子供のむし歯の罹患型において、A型(上前歯あるいは上下の奥歯のみのむし歯)に着目し、上の前歯のむし歯予防対策を実施する。
Check モニタリング 評価	モニタリング： 上記①②それぞれの現状値については、3歳児健康診査受診時に随時把握 評価： 1. ストラクチャー スタッフの人数⇒職員2名(歯科医師、歯科衛生士)、嘱託3名(歯科衛生士) 他機関との連携⇒福祉部子育て支援課・子育て支援団体等・児童福祉施設 2. プロセス 1歳6か月健康診査時のリスク診断に基づき、その場でフロッシング指導を実施し、1年半後の3歳児歯科健康診査の受診結果により効果判定する。 判定結果を1歳6か月児健康診査時の取組にフィードバックし、目標達成を計る。 3. アウトプット ①の具体的取組 ア. 母子健康手帳への次期来所予定月のお知らせ(見込み1,500人) イ. 塗布回数とむし歯減少についてのリーフレットを配布(見込み2,800枚) ②の具体的取組 ア. 1歳6か月及び3歳児健康診査時のフロッシング指導数(見込み500人) イ. 口腔ケアについてのリーフレットを配布(見込み5,200枚)

【平成 28 年度報告】

小樽市健康増進計画 次世代の健康づくり（子育て支援SG）

作成者氏名：（ 山本 直美 ）

施 策	思春期健康教育の推進
事業名	思春期健康教育事業
事業費	母子保健事業費
Plan 活動計画 (目的 目標)	目的：思春期における児童、生徒が、健康や性行動、性感染症などについての正しい知識を身につけることができるよう健康教育を実施するとともに、関係機関との連携を強化する。 目標：エイズ、妊娠、避妊について正しい知識を有することができる。
Do 実践 (対象、方法、 時期など)	1 市内小・中・高等学校に出向き、望まない妊娠、HIV を始めとした性感染症予防、飲酒、喫煙等についての健康教育を実施 2 思春期教育の推進について小中校長会にて周知
Check モニタリング 評価	モニタリング：依頼のあった学校に出向いており、昨年度に比べ実施数は減少している 評価： 1 小・中・高等学校への健康教育の実施 ・全実施数 26回（高校4、中学校8、小学校14） ・性・エイズ（再掲） 15回（高校3、中学校6、小学校6） ・たばこ・薬物（再掲）11回（高校1、中学校2、小学校8） ・参加人数 1,375人 2 思春期健康教育の推進について小中校長会にて周知 ・小・中学校の校長会に対して、健康教育の目的及び申込方法についての文書を配布（1回）
Act 改善	小・中学校の校長に対する事業周知を継続し、依頼のあった学校に出向き、健康教育を実施していく。

【平成 29 年度計画】

小樽市健康増進計画 次世代の健康づくり（子育て支援SG）

作成者氏名：（ 山本 直美 ）

施 策	思春期健康教育の推進
事業名	思春期健康教育事業
事業費	母子保健事業費
Plan 活動計画 (目的 目標)	目的：思春期における児童、生徒が、健康や性行動、性感染症などについての正しい知識を身につけることができるよう健康教育を実施するとともに、関係機関との連携を強化する。 目標：エイズ、妊娠、避妊について正しい知識を有することができる。
Do 実践 (対象、方法、 時期など)	1 市内小・中・高等学校に出向き、望まない妊娠、HIV を始めとした性感染症予防、飲酒、喫煙等についての健康教育を実施 2 思春期教育の推進について小中校に対して周知
Check モニタリング 評価	

【平成 28 年度報告】

小樽市健康増進計画施策に基づく具体的方策

作成者氏名：(鎌田 和子)

施 策	麻しんワクチン接種の推進															
事業名	麻しんワクチンの接種率向上															
事業費	感染症予防対策費、予防接種費															
Plan 活動計画 (目的目標)	目的：麻しん排除に向け、麻しんワクチン（1期及び2期）の接種率の向上を図る。 目標：麻しんワクチン接種率 95%以上（平成 34 年度目標値）															
Do 実践 (対象、方法、 時期など)	<p>1 対象児への勧奨（啓発、個別案内送付、未接種児への電話勧奨）</p> <p>(1) 第1期対象者</p> <p>① こんにちは赤ちゃん訪問時接種勧奨（全戸訪問、通年）</p> <p>② 乳児健診・相談時等の接種勧奨</p> <p>③ 未接種児に電話勧奨（1歳10か月時）</p> <p>(2) 第2期対象者</p> <p>① 幼児健診・相談時接種勧奨（通年）</p> <p>② 対象児に個別通知（勧奨文書及び予診票）（時期：4月）</p> <p>③ 未接種児に電話勧奨（時期：平成 29 年 2 月）</p> <p>④ 未接種児に個別通知（勧奨文書）（時期：平成 29 年 3 月）</p> <p>2 関係機関を通じて普及啓発（チラシ、ポスターの配布）</p> <p>保育所・幼稚園（時期：7月）教育委員会（時期：11月就学時健診）子育て支援課（時期：10月ちびっこフェスティバル）</p>															
Check モニタリング 評価	<p>モニタリング：第1期及び第2期の接種率（毎月）</p> <p>評価指標：MR ワクチン第1期・第2期 接種率 95%以上</p> <p>【評価】</p> <p>① ストラクチャー 総務課予防接種担当、子育て SG、感染症 SG で役割分担をして実施</p> <p>② プロセス 計画に基づき予定時期に各担当者が実施。</p> <p>③ アウトプット（平成 29 年 5 月 30 日現在）</p> <table border="1" data-bbox="459 1547 1398 1695"> <thead> <tr> <th></th> <th>対象者数</th> <th>接種者数</th> <th>接種率</th> <th>※前年度接種率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1期</td> <td>578 人</td> <td>558 人</td> <td>96.5%</td> <td>91.0%</td> </tr> <tr> <td>第2期</td> <td>705 人</td> <td>674 人</td> <td>95.6%</td> <td>94.7%</td> </tr> </tbody> </table> <p>④ アウトカム 目標接種率 95%以上を第1期、第2期ともに達成。</p>		対象者数	接種者数	接種率	※前年度接種率	第1期	578 人	558 人	96.5%	91.0%	第2期	705 人	674 人	95.6%	94.7%
	対象者数	接種者数	接種率	※前年度接種率												
第1期	578 人	558 人	96.5%	91.0%												
第2期	705 人	674 人	95.6%	94.7%												
Act 改善	第1期及び第2期ともに目標の接種率を達成した。今後も啓発活動及び個別勧奨を継続し、接種率の維持向上を目指す。															

【平成 29 年度計画】

小樽市健康増進計画施策に基づく具体的方策

作成者氏名：（ 鎌田 和子 ）

施 策	麻しんワクチン接種の推進
事業名	麻しんワクチンの接種率向上
事業費	感染症予防対策費、予防接種費
Plan 活動計画 (目的目標)	目的：麻しん排除に向け、麻しんワクチン（1期及び2期）の接種率の向上を図る。 目標：麻しんワクチン接種率 95%以上（平成 34 年度目標値）
Do 実践 (対象、方法、 時期など)	<p>1 対象児への勧奨（啓発、個別案内送付、未接種児への電話勧奨、）</p> <p>(1) 第1期対象者</p> <p>① 赤ちゃん訪問時接種勧奨 (通年)</p> <p>② 乳児健診・相談時等の接種勧奨 (通年)</p> <p>③ 未接種児に電話勧奨（1歳10か月時） (通年)</p> <p>(2) 第2期対象者</p> <p>① 幼児健診・相談時接種勧奨 (通年)</p> <p>② 対象児に個別通知（勧奨文書及び予診票） (時期：平成 29 年 4 月)</p> <p>③ 未接種児に電話勧奨 (時期：平成 30 年 2 月)</p> <p>④ 未接種児に個別通知（勧奨文書） (時期：平成 30 年 3 月)</p> <p>2 関係機関を通じて普及啓発（チラシ、ポスターの配布）</p> <p>保育所・幼稚園（時期：10月）教育委員会（時期：11月就学時健診）子育て支援課（時期：10月ちびっこフェスティバル）へ協力依頼。</p>
Check モニタリング 評価	モニタリング：第1期及び第2期の接種率（毎月） 評価指標：MR ワクチン第1期・第2期 接種率 95%以上

Act 改善	<ul style="list-style-type: none"> ・新規団体の拡大が必要なことから、小樽市健康づくり推進ネットワーク会議の活動内容と合わせ、対象者について検討していく。 ・各サブグループで健康教育をはじめ新規の団体に関わる機会がある場合は周知を積極的に行うとともに、同じ団体でも、受講者が違う場合など周知漏れがないように留意する。
-----------	---

【平成 29 年度計画】

小樽市健康増進計画施策に基づく具体的方策

作成者氏名：(須摩 敦子)

施 策	第 2 次健康おたる 21 普及啓発活動
事業名	第 2 次健康おたる 21 普及啓発活動
事業費	健康増進計画事業費
Plan 活動計画 (目的目標)	<p>【平成 29 年度実施予定計画】</p> <p>1 各分野における健康教育等を活用し、新たな団体等に対して重点的に普及啓発を図る。(到達度 3,000 人)</p> <p>2 計画概要版の増刷 (到達度 2,000 枚)</p>
Do 実践 (対象、方法、時期など)	各分野における健康教育等を実施する際に、あわせて本計画について参加対象者に周知を行う。
Check モニタリング 評価	<p>【モニタリング】</p> <p>平成 29 年度実施団体と 28 年度以前の実施団体を突合し評価</p> <p>【評価の視点】</p> <p>① ストラクチャー (構造)</p> <p>健康増進課職員による健康教育実施の機会に合わせて参加対象者に周知</p> <p>② プロセス (過程)</p> <p>小樽市健康づくり推進ネットワーク会議委員との協働により、普及啓発を図る。</p> <p>③ アウトプット (事業実施量)</p> <p>計画 1 : 健康教育等の実施と合わせて計画の趣旨、概要について周知を実施</p> <p>計画 2 : 計画概要版の増刷</p>

施 策	チャレンジ！健康クイズ
事業名	チャレンジ！健康クイズ事業
事業費	健康教育事業費（健康教育）
Plan 活動計画 (目的目標)	活動計画：健康情報の提供 1 小樽市健康づくり推進ネットワーク会議を活用し健康情報提供の推進を図る
Do 実践 (対象、方法、 時期など)	実践 1 健康情報を掲載した「おたる健康ナビゲーター」名刺を作成。 平成 28 年 4 月から、小樽市健康づくり推進ネットワーク会議委員へ配布し、 市民への周知を依頼した。
Check モニタリング 評価	評価 名刺の活用状況は、各委員で異なるが、市民への配布数は数枚～50 枚程度となっている（平成 28 年 5 月末現在）。所属する団体によっては配布が困難な委員もあり、 配布方法については今後の検討が必要。 また、名刺以外の方法で健康情報を提供できる機会を増やしていけるよう、小樽市健康づくり推進ネットワーク会議の活動内容を活性化させていく必要がある。
Act 改善	改善 平成 29 年 7 月、小樽市健康づくり推進ネットワーク会議委員改選により、新しい委員の就任が予想されることから、改めて、名刺配布について依頼していきたい。 また、健康情報の提供も含め、小樽市健康づくり推進ネットワーク会議の活動内容について、委員とともに検討していく。